

所在地：熊本県南小国町 選定年月日：平成29年10月13日 面積：1,282.2ha 選定基準：二(一)(二)(三))

(1) 概要

南小国町は小国郷の南半分を占め、東部のくじゅう山系涌蓋山麓(わいたさんろく)から連なる標高400m以上の斜面地に位置します。

筑後川源流域にあたるため、北外輪山から流れ出た湯田川、中原川、馬場川、志賀瀬川、満願寺川、田の原(たのはる)川等の中小河川が町域を北流します。谷底の居住地周辺に狭い耕作地が広がり、斜面上は林地、谷が深いため居住地から離れた尾根筋高台に草地が広がる傾向があり、大規模な草地は涌蓋山周辺と阿蘇外輪山から延びる台地上に残ります。

江戸時代には、井手(水路)の開削、灌漑整備によって畑から水田への転換が行われます。また、筑後川下流の日田から木材の買い付けが行われた地域であり、戦後の拡大造林によって、さらに草地や雑木林からスギ林への転換が進み、林地は小国杉を中心とした林業景観が広がります。

中原川沿いには、かつて阿蘇一円から牛馬を伴って畜産農家が参拝に訪れたという馬頭観音を祀る神社が残っており、往時の馬の供養と結び付いた景観を知ることができます。

田の原川沿いの黒川温泉は、開業してから地域が一体となって、街並みの色彩統一、雑木の植栽、乱立看板等の撤去を実施し、自然景観及び和風旅館を尊重した景観保全による地域づくりを進めていることで著名です。

南小国町西部の草原及び森林景観は、阿蘇の文化的景観を構成する要素として重要です。

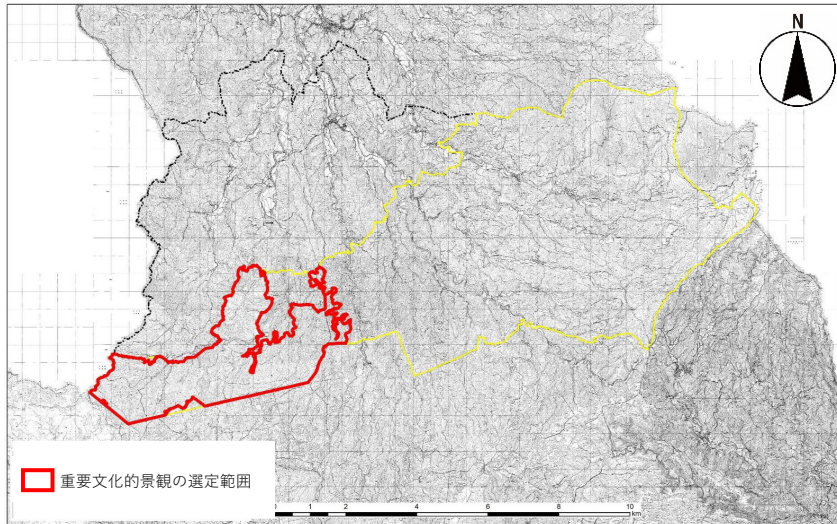


草原



野焼き

（２）選定範囲



- 重要な構成要素：11件

（３）選定による効果

南小国町では、公民館での座談会や小学校での出前授業を通し、地元住民の草原維持に対する機運上昇を図っています。小学校の出前授業では、牧野で採集された土器を素材に、草原や歴史に関する学習を行いました。選定により、地元住民の文化的景観保全への意識の醸成が期待されます。



小学校での出前授業の様子



現地学習の様子

（４）保存活用計画などの基礎情報

- 阿蘇の文化的景観保存調査報告書（平成28年3月、阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、西原村）
- 阿蘇の文化的景観 保存計画（平成29年3月、南小国町）

(5) 活用事例

阿蘇の文化的景観	阿蘇北外輪山及び中央火口丘群の草原景観	(熊本県阿蘇市)	No.43-04
阿蘇の文化的景観	南小国町西部の草原及び森林景観	(熊本県南小国町)	No.43-05
阿蘇の文化的景観	湧蓋山麓の草原景観	(熊本県小国町)	No.43-06
阿蘇の文化的景観	産山村の農村景観	(熊本県産山村)	No.43-07
阿蘇の文化的景観	根子岳南麓の草原景観	(熊本県高森町)	No.43-08
阿蘇の文化的景観	阿蘇山南西部の草原及び森林景観	(熊本県南阿蘇村)	No.43-09
阿蘇の文化的景観	阿蘇外輪山西部の草原景観	(熊本県西原村)	No.43-10

事例43-04~10 ①

広大な草原の維持のため行動する人づくり「阿蘇グリーンストック」

●住民や団体等による取り組み

阿蘇の草原は、太古から野焼き・採草・放牧と人々の営みによって維持されてきました。しかし近年、高齢化や担い手不足により、草原の維持が困難となってきました。

公益財団法人阿蘇グリーンストックでは、阿蘇の豊かな緑を後世へ引き継ぐことを基本理念として様々な取り組みを行っています。美しい阿蘇の草原を後世に残すための「野焼き支援ボランティア」は、講義と実技を交えた初心者研修会を行った上で、野焼き前の防火帯作りである輪地(わち)切り・輪地焼きや野焼きなどへ派遣し、地元の方々と連携し草原保全に取り組んでいます。

また多くの方々へ阿蘇の草原の美しさや価値を伝え、一緒に守りたいという思いを増すためにパネル展やシンポジウムなど普及・啓発活動にも力を入れています。

ほかにも阿蘇の草原を身近に感じてもらうと県内外の学生に向けた環境学習やファームステイなど体験プログラムも実施しています。

今後多くの方に阿蘇の草原について伝え、一緒に考え行動できる取り組みを推進していきます。



あか牛を食べながら阿蘇の草原を考える



輪地切りの様子



野焼きの様子



講演の様子

団体等情報：公益財団法人阿蘇グリーンストック <https://www.asogreenstock.com/>

① 地域内での
魅力の共有

② 目標性化の
共有

③ 広域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり・
人づくり